

第7回新居浜市今後の学校の在り方に関する検討委員会概要

開催日時：平成31年2月5日（火）17時00分～18時30分

開催場所：新居浜市役所5階 大会議室

出席者：神野康一委員長他10人

傍聴者：なし

【教育長挨拶】

- ・少子化が進行し、平成から新しい時代に移る中、本市の子ども達の学校教育を取り巻く環境を時代に即応したものにしていかなければならないと感じている。
- ・今後は小中学校の在り方についての議論について進めてもらいたい。

1 小中学校の適正規模について

【望ましい学級規模について】

- ・小学校 30人（1学級あたり）
- ・中学校 30人（1学級あたり）

【理由】

- ・人との関わり、教師の負担を考えると30人～40人がちょうどいいと思う。
- ・コミュニケーション能力を高めることにも繋がるので、30人程度でクラス替えもできるといいと思う。
- ・家庭との情報交換、きめ細やかな指導のためには、25人～30人程度が適正である。
- ・30人程度がちょうどよかった。
- ・社会の在り方が変化する時代の中で、教員への負担は確実に増えている。このままでは、教職に就く希望者もいなくなるのではと懸念される。20人や30人が一番理想だと思う。

【望ましい学校規模について】

- ・小学校 2学級以上（1学年あたり）
- ・中学校 2学級以上（1学年あたり）

付則：ただし、1学級であっても地域の実態が大変いい場合はこれに該当しない

【理由】

- ・小規模校で育ったが、1学級で全く問題がなかった。地域の人たちがうまく応援し育ててくれた。
- ・クラス替えをした方が、コミュニケーション能力を高めることに繋がると思う。

【意見】

- ・確固たる考えをまとめきれない。今後、10年或いは20年児童生徒の数も予測しどういう状態になるというところまで見越して、学校で学ぶ子どもたちが寂しいと思う複式学級にならないように、クラス替えができ、確実に1学年で2学級以上維持できるような考え方で学校の統廃合も視野に入れながら議論していかなければならないと思う。
- ・実態に応じて考え直さないといけない。

2 小中学校の適正配置について

【論議の要点】

- ・新居浜市内の公立学校の建て替え時期は65年を1つのアセットスパンと考えて、25年後ぐらいである。
- ・必ず建て替えの時期は来ると思う。学校の統廃合時のスクールバスで対応することや小中一貫校への将来ビジョン等も視野に入れ、保護者の意見も吸い上げながら10年、20年後の計画を立てる必要があるように思う。例えば、中学校は川西地区・川東地区に各1校、上部地区に2校にする等。
- ・大きなビジョンというか見通しというか、新居浜市の将来の学校像など、基本的なものが立ち上がったうえで論議することが大事だと思う。
- ・学校は、地域のコミュニティとしての存在もある。
- ・まず、市が統廃合の可能性がある方針を出した上で、PTAや市民全体で考えていかなければならないと思う。
- ・新居浜市がどのような教育を目指してどういう学校づくりを進めたいというビジョンを持った上で摺り合わせていく必要があると思う。
- ・市の立場から、次の長期総合計画を策定するにあたり、教育委員会事務局サイドが思い描いたものではなく、皆さんの意見を踏まえたうえで策定したい。事務局が毅然と決めてしまうのではなく、ここで合意形成を図っていくような場にしたい。

【要望】

- ・検討する上で、通学距離や通学時間等実態の調査や統合や通学区域についての保護者の意識調査等の資料がほしい。

3 アドバイザーからの助言

- ・学校の適正規模については、統計上・研究の結果、12人以下は少なすぎる。31人以上は多すぎる。適正規模は、13人から30人という結果は出てくる。経験上もそうである。
- ・少人数でいいのは、小学校は算数・理科・図工。中学校は数学・英語・理科である。
- ・小規模になってくると、新居浜市のコミュニティスクールの考え方等で、どれだけ他の人と関わる経験が作れるか工夫も必要である。
- ・同じ人間関係でいくのは窮屈。クラス替えをする方が成長には良い。